

社会科（歴史）学習指導案

日時：平成 29 年 6 月 13 日（火曜日）6 時限目

科目：社会科

授業者：

担当指導者：

1. 単元名

南北朝の動乱と室町幕府（東京書籍 新編新しい社会 歴史 P, 78-79）

2. 教材観

全単元を通して、『中学校学習指導要領解説—社会編』では、「南北朝の動乱と室町幕府、東アジアの国際関係、応仁の乱後の社会的な変動などを通して、武家政治の特色を考えさせ、武士が台頭して武家政権が成立し、その支配が次第に全国に広まるとともに東アジア世界との密接な関係な関わりが見られたことを理解する。」と書かれている。この範囲で扱う内容は、小学校 6 年生の日本の歴史において、きちんと歴史学習が行われており、生徒にとってはなじみの深いものだと考える。また生徒は、この範囲は大変興味深く学ぶ傾向にあり、この教材は意欲的に学習するのに最適であると考える。

3. 生徒観

本学級の一部の生徒は、発問に対して積極的に発言するが、多くの生徒は自分の意見や考えを周りの人と話し合い、まとめて発表することについて消極的である。この点を改善するために、自分で答えを考えたりペアでの話し合いを取り入れ、生徒が自分の意見を発信し、他の生徒の意見を聞き入れ参考にしてほしいと考えている。

3. 単元目標

建武の新政から南北朝の争乱に至る過程や、動乱がもたらした武家社会の変化を理解する。

4. 本時の目標

- ・南北朝時代における全国の武士の動きや、室町時代の仕組みについて理解をできるようにする。
- ・二条河原落書の資料を用い、当時の世の中への思いを知る。

5. 単元指導の計画 全 6 時

- ① モンゴルの襲来と日本
- ② 南北朝の動乱と室町幕府（本時）
- ③ 東アジアとの交流
- ④ 産業の発達と民衆の生活
- ⑤ 応仁の乱と戦国大名
- ⑥ 室町幕府とその広がり

6. 単元の評価基準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
<p>東アジア世界との密接な関わり、武家政治の展開や民衆の成長を背景とした社会や文化など、中世の歴史的事象に対する関心を高め、意欲的に追究し、中世の特色を捉えようとするとともに、中世の文化遺産を尊重しようとする。</p>	<p>南北朝の争乱と室町幕府、東アジアとの国際関係、応仁の乱後の社会的な変動や武家政治の特色について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。</p>	<p>南北朝の争乱と室町幕府、東アジアとの国際関係、応仁の乱後の社会的な変動などに関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。</p>	<p>武士が台頭してから東アジアとの密接な関係がみられたことを理解し、その知識を身に付けている。</p>

7. 本時の展開

(1) 本時の学習内容

- ・資料を分析し、建武の新政が続かなかった理由を理解する。
- ・室町幕府の仕組みを理解する。

(2) 本時の評価基準

- ・二条河原の落書の資料を用いて自分の意見で表現できているか。(思考・判断・表現)
- ・建武の新政、南北朝時代に対する関心を高め、意欲的に学習している。(関心・意欲・態度)

8. 本時の指導過程

過程	学習内容・学習活動	指導内容	指導上の留意点 評価基準・評価方法
導入 3分	<p>前回の復習 前回の内容を振り返らせる。</p>	<p><発問> 1 ①都を大都に移し、国号を元と定めて、中国を支配した人物はだれか。→<u>フビライ=ハン</u> (チンギス=ハンは分かっていた中国・中央アジア・東ヨーロッパを征服し支配) ②1274年、1281年に二度の襲来があった、この2つの総称をなんというか。→<u>元寇</u> (弘安の役では暴風雨で勝利)</p>	<p>室町幕府のしくみで扱う プリントを配布する。</p>
展開 44分	<p><二条河原落書> 二条河原落書の内容を通して、当時の世の中の人 はどのように思っていたか かを理解させる。</p> <p><南北朝の動乱> 建武の新政と南北朝の動 乱について理解させる。</p>	<p>武士の政治否定から二条河原 落書が作られる。</p> <p><発問> 2 これを書いた人の立場に立っ て、当時の世の中についてど う思うか。 <u>生徒から予想される答え</u> ・不満を持っていた ・不安に思っていた ・早く平和になってほしい (正しい答えを書く)</p> <p><発問> 3 二条河原落書は1334年に 出されましたが、この年は何 が起こった年でしょうか？ (<u>建武の新政</u>)</p> <p><発問> 4 建武の新政をすすめた人物は 誰でしょうか？ (<u>後醍醐天皇</u>)</p> <p><発問> 5 その建武の新政ですが、何年</p>	<p><u>板書</u> 板書計画参照</p> <p>自分で考える時間 <u>2分</u> ペアワークの時間 <u>3分</u></p> <p><u>机間巡視</u> 生徒2人に発表させ、意見 を黒板に書く。</p> <p>(後醍醐天皇の写真掲示) ・南北朝の動乱の部分の本 読みさせる。(生徒1人)</p> <p><u>板書</u> 板書計画参照</p>

続いたでしょうか？

(2年)

なぜ続かなかったのか？

武士の間に不満が高まり、足利尊氏が武士の政治の復活を呼び掛けて、兵をあげた。

<発問> ㊦

この後は何という時代になりましたか？

(南北朝時代)

建武の新政が終わった後、尊氏は京都に新しい天皇を立て、後醍醐天皇は吉野に逃れたので、日本で唯一朝廷が2つある時代ができた。→南北朝時代

<室町幕府の発展>

室町時代の仕組みについて理解させる。

(室町時代の仕組みの説明)

1. 管領

室町幕府における将軍に次ぐ最高の役職で将軍の補佐役を務めた。

2. 侍所

武士の統率や京都の警備を行う。

3. 政所

幕府の財政を担う。

4. 問注所

訴訟(訴えて裁判を申し立てること)や裁判を担当している。

5. 鎌倉府

東国統治のために置いた機関。

建武の新政が長続きしなかった理由について教科書に書かれてあるので、線を引かせる。(2分)

(武士に冷たい政治)

プリントの穴埋めをさせる。

1. 管領

2. 侍所

3. 政所

4. 問注所

5. 鎌倉府

<守護大名と地方の動き
>
守護大名の誕生それに伴
う地方での動きを理解さ
せる。

守護大名と地方の動きの
部分を本読みさせる。(1
人)

板書 板書計画参照

ま
と
め
3分

6. 本時のまとめ
次の時間の予告

次の東アジアとの交流琉球王
国について予告